



十日町市立田沢小学校 学校だより

# ときめき 田沢っ子

《教育目標 やさしく かしく たくましく》

<https://www.schoolweb.ne.jp/tokamachi/tazawa-e>

TEL 025(763)2018 FAX (763)4419

令和6年9月20日 第11号



## かわいい子にはどんどんさせましょう！

校長 高橋 雅彦

私がインドの日本人学校に派遣されていた時の苦い経験をお話します。インドで生活するうえで、日本人の教員や駐在員は現地のインド人をハウスタッフとして雇用することがほとんどです。我が家では警備員を2名とドライバー、メイド、掃除人をそれぞれ1名ずつ雇っていました。インドは治安が悪く、警備員が24時間体制で自宅を警備します。道路状況も大変ひどくて、日本人で車を運転できる人はまずいません。メイドさんの主な仕事は料理です。買い物や食事作り（派遣者が単身の場合はお弁当も）などをしますが、日本人家庭で働いた経験のあるメイドさんは日本人好みの味が分かり、すごい方になると日本料理を作ることもできました。

我が家の最後に雇ったメイドさんは、日本人家庭は初めてで日本料理は作れませんでした。私の妻は主に料理の下ごしらえをお願いし、味付けなどは自分ですることにしていました。日本食材は高価で貴重なため少しも無駄にたくありません。私たちの派遣中はそれで問題なかったのですが、私たち家族が帰国する際、次年度の派遣者が減るため、ハウスタッフを何人か解雇しなくてはならなくなりました。誰のハウスタッフを解雇するかが話し合われました。我が家のメイドさんはすごく仕事が丁寧で、人柄もいい方だったのですが、日本料理が作れないという理由で解雇せざるを得ませんでした。私たち家族は帰国するにあたり、インドにとっても大きな後悔を残してきました。もっと一緒に料理をして日本料理の作り方を教えておけば、またどこかの日本人家庭で雇ってもらえる機会をあげることができたのに…。



子どもたちは未熟です。でも、何もできないわけではありません。ぜひ子どもたちにはどんどんやらせてみてください。うまくいかないことももちろんあるでしょうが、経験させてみなければ、それができないかどうか分かりません。大人がやった方がうまくいくことは間違いありません。でも、それでは子どもたちの学ぶ機会がなくなります。子どもたちが成長するためには、うまくやって自信を深めたり、反対にうまくいかなかった場合にその原因を考えたりする経験がとても大切です。

5年生は今月、清田山キャンプ場でトレーニングセンターに臨みました。テントを立てたり、野外で調理をしたり、魚の内臓を処理したりと初めてづくしだったことと思います。中には弱音をはく子もいたことでしょう。ですが、それにあえて取り組ませることに大きな意味があります。「これまでしたことがないからやってみる」「今までさせたことがないからこそやらせてみる」。それができる環境であってほしいと思います。子どもたちにはどんどんさせて育てましょう。Let's try and let's enjoy!



## 《トレセン in 清田山キャンプ場》 みんなとっても enjoy できました！

9月5日(木)、6(金)に行われた1泊2日の5年生のトレーニングセンター。天候にも恵まれ、清田山キャンプ場ですばらしい体験をすることができました。手づかみでニジマスを捕り、それを炭火で塩焼きにする。聞いただけでもよだれが出そうです。様々なご準備をいただいた保護者の皆様、キャンプ場のスタッフの皆様、ありがとうございました。ここに紹介し切れないほどの楽しい思い出がたくさんできました。



ゆくらから清田山キャンプ場までは歩いていきます。坂道を上るところからトレセンの活動は始まります。



昼食の後はテントを立てます。ペグを地面に打ち込んでロープを張ります。崩れないようにしっかり張らないと。



夕食のカレー作りです。班で分担して材料を切ったり、かまどで火を起こしたり。強い火力で鍋が壊れるアクシデントも。



キャンプファイヤーでは4人の火の守が登場。第2部では歌やダンス、練習したスタンプで盛り上がりました。



いけすの中を泳ぐニジマスのつかみ取り。ぬるぬるでつかみづらい！それでもゲット！大きいでしょ！



ニジマスの内臓を処理して、炭火でじっくり焼きます。自分たちで捕まえたニジマスの味は格別です。

## 《職員のおススメの本紹介①》

みなさんにもっともっと本に興味をもってもらおうと、職員がお気に入りの本を紹介します。トップバッターは6年生担任の藤原教諭です。



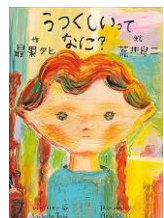
### ① 「モンテロッソのピンクの壁」 作：江國香織 絵：荒井良二 1992 ほるぷ出版

カラフルなイラストが印象的な絵本です。主人公の猫はどうして「モンテロッソ」に行きたかったのでしょうか。壁はなぜピンク色なのでしょう。そして、最後に猫はどうなってしまったのでしょうか。問いの答えは見つからないままですが、一つだけ分かったことは、「とにかくどこかへ旅に出たい」という読後感でした。ここではないどこかへ行きたいという潜在意識を揺さぶってくれる作品です。



### ② 「うつくしいってなに？」 作：最果タヒ 絵：荒井良二 2024 小学館

うつくしさとは何でしょう。荒井良二さんの描く絵がとても好きです。「とにかくハッピー！」な気持ちになれる一方で、心の奥のズンとした部分を揺さぶられる感覚にもなるのが荒井良二さんの手がけた作品です。いつまでも子どもの心をもった大人でいたいと思いました。



どちらの本も情報館で借りることができます。アプリで予約すると簡単ですよ♪